

令和 7 年度

奈良市版 自分ごと化会議 in 東里

提案書

令和 8 年 3 月 21 日

§ 1. はじめに

私たち「自分ごと化会議 in 東里」の参加者は、本年度（令和7年度）に計4回の会議を重ね、東里地区の2050年の未来像と、そこに向けた具体的な取組を検討してきました。東里地区自治協議会準備会と奈良市東部出張所からの案内文をきっかけに集まった私たちは、町や年齢、職業が異なる多様な顔ぶれで、初回は緊張がありました。回を追うごとに打ち解け、和やかで活発な議論を重ねることができました。

会議を通して改めて実感したのは、人口減少や少子高齢化に伴う「担い手不足」が東里地区の喫緊の課題である一方、草刈りやしめ縄づくり、祭礼など日常的な営みが地域の大きな魅力となり得ることです。まずは地域の住民が日々の暮らしを楽しみ、つながりあい、賑わいの場を作ることで、地区外の人との関わりが生まれ、つながりが広がっていくと感じました。

また、新たなイベントや事業を具体化するためには、まず地域住民同士のつながりや助け合いを深めることが不可欠であるとの認識を共有しました。会議では交通、医療、福祉、インフラ整備、災害対策、若者の参画促進など多岐にわたる課題と提案が出され、単発ではなく継続的な対話と共助による取り組みが重要であることが明らかになりました。

全4回の議論を経て、6つの具体的な計画案を取りまとめ、実行に向けたスケジュールや役割分担の方向性を確認しました。参加者からは「顔の見える関係づくりになって良かった」「議論しているうちに『できそうかな』と思えるようになった」「東里地区全体の取り組みとして捉えられた」「家族、町、地域、国全体に関わることは自分の世界にも関係あるように思う」「今後何ができるのか分からないが、ひとごとではない」といった前向きな感想が多く寄せられ、最初は顔見知りでなかったメンバー間にもネットワークや協力の芽が生まれました。

本提案書は、会議での議論や計画案、参加者の声をまとめた出発点です。地域住民、地域自治協議会、自治会、関係団体、事業者、行政など多様な主体と連携し、小さな実践を積み重ねることで東里の魅力を次世代へ引き継ぎ、持続可能な地域づくりにつなげたいと考えています。本提案書が、東里地区の各地で人と人とのつながりや新たな協力、イベント、事業が生まれる一助になることを心より期待しています。

自分ごと化会議 in 東里 参加者一同



§ 2. 提案内容

以下の提案は、私たち会議参加者が4回にわたって議論してきたことを中心にまとめたものです。

(1) テーマ

みんなで描く、東里の2050 ー東里の今を知り、将来をスケッチしようー

(2) 2050年の東里の理想像

自分ごと化会議の前半では、「2050年の東里の理想像」について環境、社会、経済、文化、人口の5項目に分けて話し合いました。主な内容は以下の通りです。

①環境（景観や自然、守りたい風景など）	
・現在の里山や田園の美しい景観を維持し、豊かな自然と美しい星空、ホタルなどの自然資源が残る地域。	
・須川ダムの桜や、須川ダム湖でのたらい舟、花火、釣り、竹林・山でのハイキング、ドッグランなど、豊かな自然を最大限に活用し、それを若い世代へ伝えられる地域。	
・「広い土地を活用した一人親方団地」「活気あふれるエリア」「ペット共生が可能な場所」として有効活用されている地域。	
・自然と共生できる安全で安心な暮らしが実現され、獣害対策も講じられている地域。	
②社会（交通、福祉、教育、つながりなど）	
全般	・住民が「笑顔で助け合い、お互いを褒め合える」安全で暮らしやすい地域。 ・生活基盤（道路、通信、医療・介護）が整備され、安心できる環境。
交通	・交通アクセスが改善され、交通利便性が高く、孫世代が免許の有無に関わらず移動できる地域（ドローン配送、コミュニティバス、自動運転による病院送迎や買い物支援などを活用）。
福祉、医療	・医療・介護サービスが充実し、誰もが安心して暮らせる社会基盤が整っている地域。
教育	・子どもがたくさん増え、教育環境が充実し、子ども同士・ママ同士の活発な交流が生まれる地域。
つながり	・娘や孫が「いつか帰ってきたい」と思える故郷であり、生涯にわたる「つながり」が維持され、住民が地域活動に「自分が参加している」と実感できる、多世代交流コミュニティがある地域。 ・地域の魅力が分かりやすく外部にも伝わり、新旧住民が協働して地域運営を行っている地域。

<p>③経済（産業、仕事、買い物、観光など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業（米や畜産等）を継続・発展させつつ、多様な産業が共存する地域経済。 ・ 農業を基盤とした6次産業化が進み、地域外からも人が訪れ、消費者と直接交流できる地域。 ・ 地域資源を活かした観光や関係人口を増やす仕組みがあり、地元で働ける魅力的な仕事がある地域。 ・ 小規模事業や6次産業化が進み、地場産品で自立できる経済基盤が確立され、病院や買い物施設へのアクセスも良い地域。
<p>④文化（祭りや神事、伝統、新たな文化など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統的な祭りや文化を守りつつ、新しいイベントや文化活動が生まれる活気ある地域。 ・ 夏のふれあい祭りなどのイベントを通じて、家族や昔の知り合いが再会できる機会が豊富にある地域。 ・ 地域外の人も参加する多彩な交流の場を通じて、地域文化が持続的に継承されている地域。
<p>⑤人口（人口構成、関係人口、Uターンなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若者や子育て世代が暮らしやすく、移住やUターンが進むことで一定の人口が維持・回復している地域。 ・ 若者も積極的に地域活動に巻き込まれるような、アスレチックのような活気にあふれ、自由な発想でやりたいことを実現できる環境がある地域。 ・ 関係人口（訪問者・ファン）が増え、交流が日常的に生まれている状態。

(3) ありたい姿に向けた計画案

後半では、「ありたい姿に向けた具体的なアクション」について話し合いを行い、以下の6つの事業計画案を考案しました。

計画案1：地域交通

取り組み名	地域交通（個人タクシーのような乗り合わせ、数人でまとめて移動できる手段）	
提案者	吉岡氏、ほか	
取り組み概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が数人で車両に乗り合わせ、目的地まで移動する仕組みを構築する。 ・自宅から集合場所まで自力で歩け、かつ1人で買い物等ができる住民を対象に、買い物や病院への移動支援を行う。 	
計画の想い	<ul style="list-style-type: none"> ・2050年の東里地区を見据え、移動を通じて住民同士のふれあいや対話の機会、また顔を合わせる場を創出する。 	
具体的な内容	主体	<ul style="list-style-type: none"> ・運転手はボランティア。行政の補助も受ける。
	対象	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅から集合場所まで歩行可能で、買い物等を自ら完結できる地域住民。
	運用形態	<ul style="list-style-type: none"> ・主に①買い物と②通院で、数人単位でまとめて移動する。4人乗り程度のモデル車両での移動を想定する。
	頻度・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は運行時間に合わせて乗車する。 ・①買い物支援は週1～3回程度を想定する。 ・②通院（薬の受け取り等）は月1回程度。通院の場合は帰宅時間を揃えてまとめて乗車する。薬の受け取りのみの場合は曜日・時間を固定して定期運行する。
	集合場所	<ul style="list-style-type: none"> ・個別送迎による時間ロスを抑えるため、近隣の駐車場や中間地点を集合場所に設定する。
期待する効果	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物や通院の利便性が向上する。 ・移動時間における対話を通じて地域住民の交流が促進される。 ・2050年に向けた持続可能な地域維持に寄与する。 	
予算概要	利用料	<ul style="list-style-type: none"> ・継続性を確保するため有償とする。1人あたり往復500円、または1台あたり2,000円を想定する。
	財源	<ul style="list-style-type: none"> ・燃料費や一部運営費は利用料で賄い、不足分は補助金や資金調達（クラウドファンディング等）で補う。
その他・検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの運行やコミュニティバスの可能性の検討。他交通手段との比較。 ・補助金の割合・財源、行政の補助や資金調達の検討。 ・地域ごとの利用者数調査や住民ヒアリング（必要区域、地域ごとのニーズととりまとめ役）。 ・運転手の選定。 ・運転ボランティアに対する研修や認定要件の調査。講習や認定等の期間と要件の確認。 	

	・地区別人数、利用内容、利用時間などの情報を病院と連携して共有する。	
スケジュール	事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・住民へのヒアリングを実施。 ・交通空白地帯の認定。 ・地域への周知。
	運用前準備 (準備から約2カ月後)	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア募集(研修受講、運転手として認定)。 ・資金調達。
	試行(数カ月間)	<ul style="list-style-type: none"> ・各ルートに応じた運行ができるか確認。 ・試行後、本格運用。
実行に向けて、次に提案者(わたし)がやること	<ul style="list-style-type: none"> ・先行事例の調査。 ・各地域の協力者を募る。 	

計画案 2 : 草刈イベント

取り組み名	草刈イベント	
提案者	西田氏、登り氏、ほか	
取り組み概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の美しい景観を維持するための草刈り活動をイベント化し、観光振興や定住促進につなげる。 ・刈り取った草や落ち葉の有効活用や SNS による情報発信を組み合わせ、地域の魅力を広く伝える。 	
計画の想い	<ul style="list-style-type: none"> ・風景の維持は住民の満足度向上や移住促進の基盤である。草刈りを単なる作業ではなく地域の魅力を守る活動と捉え、持続可能な形で実施する。 ・草刈りを持続可能にするため、受動的なイベントから能動的に楽しめるイベントへと転換する。 	
具体的な内容	参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民を主体とし、イベント開催時には東部出張所や自治会等の支援を得る。都市部からの参加者も募集する。
	実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅周辺の個人作業に加え、都市部からの参加者を交えた地域イベントを開催する。 ・手作業による清掃や機械を用いた清掃、体験、食、賞品の提供による付加価値を創出する。 ・草刈り場所は、申込者が設定（申込は個人・グループ・団体が対象）。地域イベントでは地域の歴史・見どころを回るウォークイベント等もあわせて実施する。 ・のぼり旗、チラシ、SNS などで広報を行う。 ・報酬（金銭）だけでなく地域での体験や食事、美しい風景の共有を価値として提供する。 ・塩結び(竹の皮で包む)、味噌汁、ぜんざいなど、その場所でしか食べられない食事を提供する。
	実施頻度	<ul style="list-style-type: none"> ・草刈りイベントは年 3 回（6 月～10 月）。 ・都市部からの参加を募る地域イベントは年 1 回（11 月～12 月）。
	場所	<ul style="list-style-type: none"> ・ダムや神社等の観光スポット、道路沿いや集落内。
	評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・草刈り後は実行委員会等が現地確認を行い、作業状況を確認して評価する。 ・評価は、草刈りの範囲だけでなく、基礎ポイント（側溝のゴミ、整理整頓、片付けなど）、協力ポイント（外部から呼び込む）、創意ポイント（手作業、機械、リモコンなど別評価）、高齢者ポイント（75 歳以上など）を取り入れて定量的に評価する。 ・SNS での発信や優れた活動への表彰（市長賞等）など、楽しみながら継続できる仕組みを導入する。
	期待する効果	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい里山景観が維持され、関係人口の増加や住民満足度の向上、地域ブランドの向上が期待できる（景観デザイン）。
予算概要	<ul style="list-style-type: none"> ・個人参加は無料とする。 ・イベント運営費は参加費や補助金、協賛金により賄う。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・運営費：機材、賞金、体験プログラム、広報費等。 ・参加費：地域外からの参加費 5,000 円を想定。 	
その他・検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・機材の取り扱いや安全基準（機材が起因しておきた災害時の対応や疾病リスクは要検討）。 ・持続可能な資金集めの仕組み（資金元は検討課題）。 ・人員、役割分担。 ・市道や国道、個人宅の草刈り除外個所の確認。 	
スケジュール	4月～5月	・草刈り場所の選定（写真撮影含む）やメンバー集め、場所選定後の準備を行う。
	6月～10月	・草刈りイベント（3回程度）。
	11月～12月	・地域イベント。
実行に向けて、次に提案者（わたし）がやること	<ul style="list-style-type: none"> ・草刈り場所の写真撮影や申込みに向けた動きを行う。 ・イベントで提供する食事の準備（塩結びを包む竹の皮を探すなど）を行う。 ・自分が協力できる部分を探し運営に寄与する。 	

計画案3：人が集まる場づくり（直売所）

取り組み名	直売所を起点とした「人が集まる場づくり」	
提案者	窪田氏、福永氏	
取り組み概要	・単なる買い物拠点に留まらず、地域内外の人が集まり交流する「記憶に残る場」としての直売所を開設する。	
計画の想い	・人が集まる場所をつくることで、地域住民が意見を交わし交流できる場を提供する。 ・売るもの（産品）や手芸など売りたいものがあり、記憶に残る地域のハブのような直売所とする。	
具体的な内容	目標像	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が集まり意見を交わせる場、交流できる場をつくる。「地域のハブ」や「人をつなげる何でも屋さん」のような拠点となり、多様な世代がつながり地域を見守る場とする。 ・子ども食堂の開催を通して収穫や料理など、地域の大人と子どもが一緒に体験ができる場とする。 ・集まれる場やカフェ等の併設も想定する。
	販売内容	・農産物、加工品、工芸品など地域の多様な生産物を扱う。生産者が消費できない野菜や販売には向かない物も販売可とするなど幅広い品揃えとする。
	運営体制	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会（公募を含む）を組織し、運営方針や事業形態を決定する。 ・規模に応じた商売の仕組みや場所を決定する。 ・出展者（農家、加工者、手作り品、料理など）を集める。
	場所・アクセス	・市街地から車で30分圏内を想定（遠すぎない場所）。中学校跡地など、他目的地への経路地としての需要も取り込む。
期待する効果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流の場の創出、地域外からの来訪者の増加、地域産品の販路拡大による地域活性化。 ・既存組織との連携の可能性も考えられる。 	
予算概要	・自治会費、補助金、寄附、クラウドファンディング等を組み合わせ、土地、建物、人件費を確保する。	
その他・検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・早期のメンバー選定。 ・近隣の直売所の先進事例（阪原、田原等）へのヒアリング。 ・事業形態や規模に応じた場所選び、契約。 	
スケジュール	1年目	<ul style="list-style-type: none"> ・5月～：運営委員会の設立。 ・8月～：参加者募集、直売所のアイデアを議論する。
	2年目	<ul style="list-style-type: none"> ・方向性を決める。 ・事業計画をまとめる。
	3年目	・運営スタート。
実行に向けて、次に提案者（わたしたち）がやること	<ul style="list-style-type: none"> ・田植えが終わる5月頃に実行委員を集めてアイデア出しを行う。 ・委員として参加する。 	

計画案4：ボランティア・担い手不足

取り組み名	地域のボランティアと担い手不足の解消	
提案者	井上氏、鬼塚氏、田中氏	
取り組み概要	・草刈りや買い物、家事育児、害虫・獣害対策など、日常生活の困りごとを地域内の人材で解決する仕組みを作り、担い手不足の解消を図る。	
計画の想い	・2050年に向け、生活基盤を維持し、高齢者や子育て世帯が安心して暮らせる体制を整える。	
具体的な内容	対象	・地域住民（高齢者や困っている人、子育て世代など）。
	活動内容	・家の片付け、重作業、重機のメンテナンス、草刈り、薪割り、不用品の交換、買い物、倒木処理、ベビーシッター、ペット預かり、害虫駆除（スズメバチ、ネズミ、ゴキブリ等）まで幅広く対応する。
	運営方法	・地域のニーズ調査を実施し、事務局窓口を設ける。 ・SNSの活用や既存NPOの事例を参考に運用する。
	人材の可視化	・地域内の人材（消防経験者、庭師、教育関係者等）のスキルをデータ化し、適切にマッチングする。
期待する効果	・困りごとの解消とともに、地域住民のスキル活用が進み、多世代間の助け合いが促進される担い手不足が解消される。	
予算概要	・1回500円程度の「作業券」を発行し、依頼者と作業者の間で負担感の少ない有償ボランティア制度を構築する。 ・危険度に応じた報酬設定も検討する。	
その他・検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口設置や責任者配置（窓口は地域団体や地域自治協議会などを想定）。 ・作業レベルに応じた報酬設定。 ・事務局運営の費用確保。 ・有償ボランティアの運用ルール。 ・有償ボランティアの先行事例（ナルク奈良、月ヶ瀬など）の調査。 	
スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会長や組頭に地域の人材（現在の職業、退職前の職業、特技など）を調査する。 ・東里地区自治協議会や有志のメンバーを集める。 	
実行に向けて、次に提案者（わたしたち）がやること	・自治会長や組頭に趣旨説明と人材の調査を行う。	

計画案5：観光・桜の名所

取り組み名	桜の名所を作る（桜の名所化）（人が集まる場づくり）	
提案者	有埜氏、瓜生氏、尾崎氏	
取り組み概要	<ul style="list-style-type: none"> ・須川ダム周辺等に桜の苗木を植樹し、将来的な名所化を推進する。 ・桜の開花時期に合わせた祭りや地域ブランド品の販売機会を創出する。 	
計画の想い	<ul style="list-style-type: none"> ・2050年に向けて、地元の人でも地域外からの来訪者も集まる場所を作る。 ・お祭りなどを通じ、継続的に地域の特産品を販売できる場を作る。 	
具体的な内容	実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の有志、植木業者、土木業者などが協力して植樹を行う。地元の人（ボランティア）が出店や運営に携わる。
	場所	<ul style="list-style-type: none"> ・須川ダムを候補地とし、広場の有効活用やイベント（ふれあい祭りからの派生）を検討する。
	植樹	<ul style="list-style-type: none"> ・県や市の配布制度、日本桜の会、宝くじ寄贈事業等の活用を検討し、早期の植樹を開始することを目指す。
	管理・運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ダムの立ち入り規制や水質維持について行政と協議し、適切な利用ルールを定める。
	イベント計画	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の小学校でイベント（祭りの復活など）を開催し、地域の若者などの関係者を巻き込む。 ・外部からの出し物としてビンゴ大会等を開催する。
期待する効果	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな観光資源の創出により、地域の認知度向上と景観維持に寄与する。 ・桜の開花時期の集客。 ・地域ブランド品の販売による地域活性化。 	
予算概要	<ul style="list-style-type: none"> ・苗木・植樹費用、管理費、イベント運営費等。 ・自治会の資金活用も検討する。 	
その他・検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・須川ダムの立ち入り規制・交渉（条件付きなど）。 ・苗木の供給・費用。 ・管理体制。 ・イベント化の具体化。 ・地元有志や業者との連携。 	
スケジュール	須川ダム	<ul style="list-style-type: none"> 5月まで：関係者募集。 6～7月：説明会。 8月：交渉。
	祭り	<ul style="list-style-type: none"> ・2026年秋の開催に向けて準備を進める。可能であれば須川ダム近隣の興東小学校で開催する。
	桜	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な植樹等のスケジュールは地元と調整のうえ決定する。
実行に向けて、次に提案者（わたしたち）がやること	祭り	<ul style="list-style-type: none"> ・自治連合会長を中心に、ふれあい祭りの運営メンバーと相談。
	桜の植樹	<ul style="list-style-type: none"> ・直近で植えられる場所探しと協力者（市の繋がりがある人等）の募集。 ・須川ダムの立入規制について、突破口を探る。 ・須川ダム周辺の桜の魅力、今後の取り組み内容の共有。

計画案 6 : 獣害対策・農業支援

取り組み名	獣害対策（イノシシ・サル・シカ等）・農業支援（電柵等導入）	
提案者	瓜生氏、大北氏、岡田氏、ほか	
取り組み概要	<ul style="list-style-type: none"> ・シカやイノシシ、サル等による被害を抑制するため、防護柵（電柵等）の導入支援や補助金申請の円滑化を図り、農業継続を支援する。 	
計画の想い	<ul style="list-style-type: none"> ・2050年の地域維持には農業の存続が不可欠であり、獣害対策は必須となる。 ・農業以外でも、シカ等が出没すると被害が出る可能性があり、獣害対策は農業の存続だけでなく関係人口や定住促進にも影響するため、個体数増加を抑制する取り組みが必要。 	
具体的な内容	地域での対応	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作者個人での措置が基本となるが、隣接地域での共同対策も検討する。 ・基本的には耕作者個人での措置をするが、根本的には隣接地域で協力した対策が必要なため、共同対策も長期的に検討する。
	情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・市や農協との連携を強化し、新しい資材や補助金制度に関する情報を地域でも共有する。 ・獣害の発生状況や被害箇所の把握と共有を行う（東里地区アプリ等も活用）。
	補助金等の運用	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金申請のサイクルと実際の作業時期のズレを解消するため、タイミング調整を図る。
	狩猟での対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ジビエ加工を行い、ふるさと納税等で収益化できる仕組みづくりを行う。狩猟免許取得支援や捕獲機物資の整備、捕獲後の処理・販売（ジビエ加工）体制の検討を行う。 ・狩猟やジビエ加工の経験がある地域おこし協力隊を受け入れる。
期待する効果	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物被害の軽減と耕作者の意欲向上により、農業の持続可能性が高まる。 ・市や農協との連携による情報共有が進み、対策の実効性が高まる。 ・ジビエ等の加工・販売により新たな収入源が確保される可能性がある。 	
予算概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「奈良市有害獣防除施設（電気柵等）の設置補助」の活用を想定する。 ・施設整備費、処理・加工施設の整備費、研修費等は補助金や自治体支援、クラウドファンディング等を組み合わせて賄う。 	
その他・検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的金額は資材の規模や種類に依存するため、補助制度の確認と申請時期調整が必要である。 ・ジビエ加工による収益化の検討と衛生管理体制の整備。 ・鹿の保護区域の精査。 ・補助金活用のタイミング調整や資材補助、獣害発生状況に関する情報共有方法（東里地区アプリ等）の整備。 	
スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・春からすぐに農作業が始まるため、取組可能な内容はすぐに実行する。 ・数年後には狩猟免許取得者が増えている状態を目指す。 	
実行に向けて、次に提案者（わたしたち）がやること	<ul style="list-style-type: none"> ・柵設置に向けての地域内での協力。 ・東里地区アプリ等を活用した情報共有。 	

(4) みんなでつくる東里 MAP

会議参加者の提案をもとに、東里地区の魅力や困りごとなどを住民目線で記載した「みんなで作る東里 MAP」を作成しました。今後、地域の魅力などを加筆できるようにしていきます。



出典：国土地理院地図を加工して作成

§ 3. 自分ごと化会議 in 東里 の実施概要

(1) 参加案内送付数及び応募者数

無作為抽出により参加案内を送付した人数	511 名
応募者数（応募率）	27 名（5.3%）

(2) 会議への参加者（敬称略）

出席者 23 名のうち、承諾をいただいた方のみ氏名を掲載しています。

有埜 和美 氏	井上 清 氏	瓜生 陽子 氏	大北 宏代 氏
大久保 裕恵 氏	岡田 善英 氏	尾崎 芳子 氏	鬼塚 典哉 氏
窪田 公和 氏	小林 幹生 氏	田中 千須子 氏	中野 文江 氏
西田 種宏 氏	登り 明美 氏	福永 春海 氏	吉岡 道弘 氏

(3) 各回の内容

回数	日程	内容
第 1 回	令和 7 年 11 月 15 日(土)	・自分ごと化会議についての説明 ・参加者の自己紹介、本会議テーマへの一言 ・東里地区の現状と将来の姿 ・議論：東里地区の 25 年後の理想像
第 2 回	令和 7 年 12 月 13 日(土)	・議論 1：ありたい姿の具体化（前回のまとめへの追加・修正） ・議論 2：東里の未来に向けたアクションを考える
第 3 回	令和 8 年 1 月 24 日(土)	・議論：2050 年の東里地区に向けた具体的な取り組み
第 4 回	令和 8 年 2 月 21 日(土)	・議論：2050 年の東里地区に向けた具体的な計画案の磨き上げ ・自分ごと化会議の振り返り

(4) 会議の様子



§ 4. あとがき

東部地域で「自分ごと化会議」を開催し、本年度で3年目を迎えました。東部地域は田原、柳生、大柳生、東里、狭川の5地区で構成され、奈良市全体の面積の約4分の1を占めます。これまでの2年間は東部地域全域で会議を行ってきましたが、地区ごとに抱える課題や解決の方法が異なるため、各地区の実情に即した具体的な議論を深めるのは容易ではありませんでした。

そのような中、東部5地区の自治連合会長らと意見交換する場で、東部出張所より「今年度は地域の実情に沿った、より具体的な議論をするため地区を絞って実施したい」との提案がありました。私は「ぜひ東里地区で開催したい」との思いで、他の自治連合会長とも協議のうえ、本会議を東里地区で実施することとしました。

今回の会議の特徴の一つは、東里地区で地域自治協議会の立ち上げが進められている点を踏まえ、提案書を実行につなげることを見据え、東部出張所と東里地区自治協議会準備会の共催で開催した点です。これにより提案書が単なる「絵に描いた餅」にならないように配慮しました。

全4回の会議では、参加者が多様な立場から地域の現状と将来像について率直に語り合いました。人口減少や担い手不足といった共通の課題が繰り返し指摘される一方で、草刈りや祭礼など日常の営みが地域の大切な魅力であり資源になり得ること、そして住民同士の関係性を深めることがすべての施策の基盤になることが改めて確認されました。

特に印象に残ったのは、参加者のみなさんの熱意と主体性です。会議を重ねるごとに顔の見える関係が生まれ、ネットワークや連絡先の交換が進んだことは、単発の議論にとどまらない持続的な取り組みにつながる大きな成果だと感じています。

本提案書は、自治会長や関係機関へ提示するにふさわしい成果であると確信しています。考案された6つの計画案は、交通、福祉、観光、農業支援、ボランティア体制づくりなど多面的であり、各分野の連携が欠かせません。単独の施策だけでは解決が難しい課題が多く、今後は継続的な対話と共助を通じて実行に移していくことが重要です。来年度（令和8年度）は「自分ごと化」の段階を越え、計画案を具体的に進めていきたいと考えています。

準備会として、この取り組みを進めてこられたことを大変心強く思います。今後は本提案書を基に、関係者と連携しながら具体的な取り組みの実行と、持続可能な運営体制の構築に努めてまいります。引き続き多くの皆さまのご理解とご協力、ご参加を賜りますよう、よろしく願いいたします。

東里地区自治協議会 準備会 会長 佐野勝彦